

第2510地区 第11グループ



2011~2012

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ会報

2011~12年度  
国際ロータリーのテーマ

こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために



Reach Within to Embrace Humanity

2011~12年度  
国際ロータリー会長

カルヤン・バネルジー

*Kalyan Banerjee*

藤田正男 会長 テーマ ———— 心から、心へ、すべてに感謝し、喜びを分かち合おう ————



2月1日 移動例会 節分祭 於 亀田八幡宮

《第2324回例会》 第29号 2月8日(水)

## 本日のプログラム

第3回クラブアッセンブリー (続編)  
会員増強とクラブ奨学生新規募集について

★会長 藤田正男

★幹事 小河博保

例会場：函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151  
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 二子ビル4F TEL23-3870



建設業許可 北海道知事許可(特-18) 渡第3434号  
全日本不動産協会会員 北海道知事免許 渡島(4) 第902号  
1級建築士事務所登録 北海道知事(渡) 第550号

新しいすまいの価値を創造する

**ヒーローマンション**

**日商興産株式会社**

〒041-0852 北海道函館市鍛冶2丁目1番3号

TEL 0138-56-6600 FAX 0138-56-2310

マンション事業部直通 TEL 0138-56-3361

ホームページ <http://www.nisshokousan.com/> メール [info@nisshokousan.com](mailto:info@nisshokousan.com)

(広告掲載：山下 清司 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

【2月7日現在のアクセス数：12562件 (+35件)】

◎ 1月18日出席報告 (中川 洲平 委員長)

会 員	24名	出席率対象会員	24名
		出席規定免除会員(a)	0名
		出席規定免除会員(b)	0名
当日出席	21名	当日欠席	3名
他クラブ出席	2名	出席合計	23名
出席率	95.83%		

・ テレフォンサービス (例会移動案内) 電話 26-3170番

次回・2月18日  
(2月15日の例会を変更)

**プログラム**

- ・ 移動例会並びにIM 午後3時点鐘
- ・ 懇親会 午後5時45分～

於 函館国際ホテル

2月1日の記録

◎司 会 藤田 正男 会長

◎斉 唱 ロータリーソング、四つのテスト とともに省略

★誕生祝 西尾会員 (14日)、増田会員 (16日)

★結婚祝 山下(清)会員 (23日)

◎会長報告 藤田 正男 会長

○次週8日の例会は、クラブアッセンブリーを行います。

議題はクラブ奨学生募集と会員増強についてです。



西尾 昌一 会員



増田 定雄 会員

◎幹事報告 小河 博保 幹事

○2月18日に開催されますIMの懇親会費は次週の例会でいただきます。

○今月の理事会は次週8日に変更し開催いたします。



山下 清司 会員

◎親睦活動委員会 弗田 和則 委員

ニコニコBOX投入報告

藤田会長・小河幹事・森 会員・鶴喰会員・小笠原会員・南木会員・齊藤会員・弗田会員  
石橋会員・成田会員・柴崎会員・増田会員・山下(宜)会員・阿部会員・松橋会員・松見会員  
渡部会員・山下(清)会員・中野会員……亀田八幡宮参拝、気持ちを新たによろしくお願ひします。  
中川会員……本日より開催の丸井さんのうまいもの大会盛況を祈願して。  
西尾会員……誕生祝をいただきましてありがとうございます。

◎移動例会 節分祭 於 亀田八幡宮



◎石橋輝夫会員に節分・厄年についてご寄稿いただきました。

## 節分のはなし (百科事典より)

立春の前日。この日をもって冬の節が終わり、春の節に移る（節とは気候の変わりめ、季節のこと）。日本では昔立春をもって元日とする風習があり、いまも立春正月を行う地方がある。とくに西日本の各地には、節分に大晦日（おおみそか）同様の行事を行うところがある。

節分の代表的な行事は寺や神社、家庭で行われる「鬼やらい」である。その式次第は宮中の追儼（ついな）において方相氏（ほうそうし）が鬼を追う形を演じるのをまねたものであるが、鎌倉時代以前の宮中の追儼の式は節分の日ではなく12月晦日に行なわれていた。現在各地の寺社で行なわれる追儼式にも、節分あるいは大晦日に行なうものの両様があり、前者の例が多い。

なお豆を打って鬼を追うことは室町時代に明の風俗をとり入れたものといわれているが、もともと日本の初春の行事には、穀物の種をおろすさまを演じて豊作の予祝とする例が多く、鬼やらいに豆をまくのも、これと同じ意味をもつと考えられる。

また「広辞苑」には、狂言の一つに、節分の夜に蓬萊の鬼が来て小歌をうたい女を口説く、女は妻になると偽って、隠れ傘・隠れ蓑・打出の小槌をとり、「鬼は外、福は内」と豆をまくので鬼は逃げ去る。との説が出ている。



## 厄年 (百科辞典から抜粋)

人の一生のうち、厄にあうおそれが多いので忌み慎まなければならぬとする年。もとは陰陽道（おんみょうどう）からとの説があるが、のちに広く民間に浸透した。室町時代に書かれた「源氏物語」にも、厄年の記述がみえる。

数え年で、男25、42、61歳、女19、33歳が厄年で、とくに男子42歳、女子33歳は大厄としてその前後3年は忌むとある。

厄払いの方法としては、寺社に詣でるとか、近隣、親類、知人を招いて饗宴を開いたりとか、ふだん身につけているものを落としたりして、厄払いをする。



(会報担当者：弗田 和則 委員)